

30・10(さんまるいちまる)運動を実践して 食品ロスを減らそう!

日本では、1年になんと2,797万トンの食品廃棄物等が出され、このうち、食べることができるのに捨てられてしまう食品「食品ロス」は632万トン(家庭からのものは302万トン)です(平成25年度環境省推計値)。これは、日本の食用の魚介類の量と同じくらいであり、おにぎりに例えると、日本人が毎日一人約一個半のおにぎりを捨てていることに相当すると言われています。

このことは、実に「もったいない」ことですし、捨てられた食品の処理にも多くのエネルギーが消費されています。

食品ロスを減らすには、私たちの毎日の「もったいない」の意識が大切です。市民の皆さんの力でこだいらの食品ロスを減らそう!

合言葉は「残さず食べよう! 30・10運動」～私たちにできること～

ご家庭で

家庭から出される生ごみの中には、手つかずの食品が入っており、さらにその中には、賞味期限前にもかかわらず捨てられているものもあります。

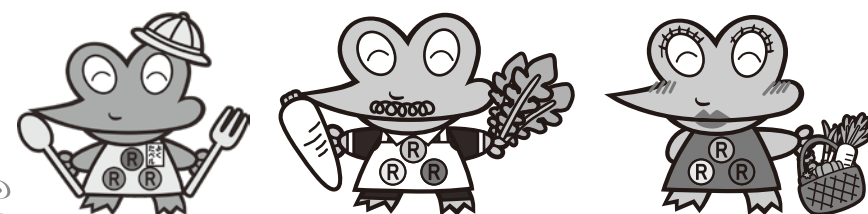


毎月30日は、冷蔵庫大掃除デー

冷蔵庫の賞味期限・消費期限の近いものや肉などの傷みやすいものから使用し、冷蔵庫を大掃除しましょう。

毎月10日は、もったいないクッキングデー

今まで食べられるのに捨てていた野菜の茎や皮などを活用して料理をする「もったいないクッキング」をしましょう。



3Rをあらためて考える

現在の日本はかなり豊かな社会なので、物を作ることの上限はありません。物を多く作ればそれだけごみも増えます。

そのような中で、1面の「シェア広場」では、物の使用価値を最後まで使い切るということを実践しています。

まずは、私たちがごみを減らそうとして思い浮かべる「3R」とは何かをあらためて考えてみました。

減量
Reduce

*ごみを減らす。無駄な買い物はしない。

例えば…安いからといって洋服などをまとめ買いしない。本当に気に入ったものを買って大切に使う。

再利用
Reuse

*繰り返し使う。使い捨てをしない。

例えば…バザー、フリーマーケット、リサイクルショップなどを利用する。洋服のボタンが外れたり、ほころびが生じても直して使う。

再生
Recycle

*ごみや資源を原材料やエネルギー源として有効活用する。

例えば…衣類は、軍手や繊維などに再生されます。

飲み会や宴会などで

乾杯後、30分間は席を立たずに料理をいただきます。

お開きの10分前には、自分の席に戻って、料理を残さず食べましょう。

30・10運動実践時の幹事等による司会例

●はじめの挨拶

今日は、「食」への感謝や「もったいない」という気持ちをもって、みんなで30・10運動を実践しましょう。

最初の30分は席を離れずにお料理をお楽しみください。

●終了10分前

終了10分前になりました。席に戻ってお食事をお楽しみいただきたいと思います。



これらの消費行動は、追加出費を抑えることにも繋がります。

ここで、「シェア広場」の人気の要因を分析してみました。

「花小金井南児童館」というハード、「シェア広場」というソフトの2つを運営する館長の絶妙なバランスによって、お母さん方のコミュニティが成り立っていると感じました。

その繋がりをより密度の濃いものにしていくのが、スタッフの皆さんの発案したシェアカードや、お母さん方への声掛けです。声掛けはコミュニティに入りづらい人への動機づけになったりして、単なる挨拶以上の結び付けとして人間関係が深まります。

その結果、様々な情報交換がなされ、お母さん方の生活の一部としてなくてはならないものになっています。

こうした取組みは、単なるごみの減量だけでなく、家計に優しく、お母さん方の繋がりを強めるコミュニティの形成にまで発展することが分かりました。

※3Rとは、「リデュース：減量」、「リユース：再利用」、「リサイクル：再生」の優先順位でごみの削減に努めるという考え方。

お家に眠っている陶磁器食器や食品はありませんか?? 「リサイクルきゃらばん」を実施

資源物の拠点回収(年に4回程度、日時と場所を予め決めて実施)を行います。ただ、ごみにするのはもったいない! 皆さん、回収品目と開催情報は下のとおりですので、ぜひ持ち寄っていただき、ごみを減らし、資源物を有効活用しましょう!

陶磁器食器

茶わん、皿、湯のみ、カップなどの食器類(割れた物も可、汚れたものは洗ってください)

※食器以外の灰皿や花瓶、ガラス、コレール材、土鍋は不可

フードドライブ

缶詰、レトルト食品、パスタなどの乾物等で、未開封で包装が破損していないもの、賞味期限が1ヶ月以上先のもの(要冷蔵・冷凍食品、瓶詰食品は不可)をお持ちください。

家庭で余っている食べ物(未利用食品)を持ち寄り、フードバンクに寄付します。そのフードバンクから様々な理由で食事に困っている人たちに、食べ物として提供されます。

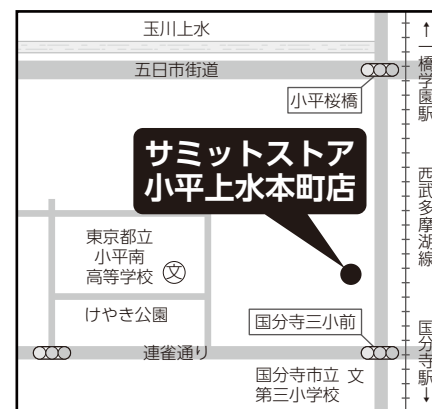


日時：平成30年3月22日(木)
午後1時～午後3時

場所：サミットストア小平上水本町店
(右図参照)

※お車での来場の方は屋上駐車場へ。徒歩、自転車の方は、1階駐輪場東側広場で回収します。

なお、市役所西通りからの右折はご遠慮ください。



「ごみ収集の最前線 異常なし!?!」

収集員はこう考える! Vol.2

最終決定はまだ出てないようですが、小平市でも少し前から言われていた家庭ごみの有料化がいよいよ避け難くなったようです。快適に暮らしていくために必要なら多少の負担はいとわれないとは思っていますが、負担する額はやはり少しでも小さくしたいと知恵を絞っています。この有料化の話題を機会に、もう一度小平市内のごみについて知りたく、収集にあたっている方々に現場のお話を伺いました。



ごみの出し方全般について—特にこの地域は問題が多いということはありません。やはり長くお住まいの方が多い地区は出し方のルールもきちんと守られていて、もしごみの出し方が変わっても混乱や問題は起きないだろうと感じています。

24時間いつでもごみを捨てられる集積所は—少なからずあります。目の前にあるごみをいつでも出せる利便さは魅力なのだと思いますが、収集に行くと分別されていない場合があります。

収集していて感じていることは?—燃えるごみの中に大量のきれいな紙が入っていたりすると、資源の出し方が伝わっていないのではないかと思います。誰でも理解できて実行できるように、分別を知らせるのが大事だと感じます。

有料化に向けて現場からの気付きがあれば—いつから始まるのか、どう変わるのか、有料となるごみはどれなのか、決まり次第知らせることがとても大事だと思います。有料化を先行した他市の混乱の原因の多くは「知らなかった」ですから、小平市も準備が必要だと思います。

どこかで誰かがうまくやってくれるのを待つのではなく、市民も事業者も市も主体的に粛々とやっていくのが一番なのかも…と感じた取材でした。

ごみ収集車両用マスクが 完成しました!

クリーンメイトこだいらの皆さんのアイデアで、ごみ収集車両のフロントに取り付けるマスクが完成しました。



今回は、マイバッグの利用促進とレジ袋の削減に向けて、カエルのキャラクターとともにPRします。繰り返し使えるマイバッグを積極的にご利用いただきますようお願いいたします。

過去にはこのマスクで「スプレー缶の分別変更」のお知らせ、「食品ロス削減」など3Rの身近な話題をお届けしてきました。

毎日市内を回っている収集車両の正面にご注目ください。

クリーンメイトこだいら(廃棄物減量等推進員)とは?

ボランティアとして、お住まいの地域でごみの減量とリサイクルについてリーダー的な役割を担っていただく方のことです。循環型社会の形成に向けて、地域に応じたきめ細やかな対策が不可欠なごみ問題は、市民・行政のパートナーシップによる取組みが大切であり、その核となるクリーンメイトこだいらのメンバーを募集しています。

お問合せは資源循環課(042-346-9535)まで。